

「奉仕」の在り方探る

岡山で
シンポジウム
舛添氏ら意見交換

「ゆうちよシンポジウム
・ボランティアを考えるー
今、私たちができること」
(岡山県内各郵便局、山陽
新聞社など主催)が十七日、
岡山市古京町の三木記念ホ
ールで開かれ、国際政治学

者の舛添要一氏や地元ボラ
ンティア関係者が活発に
意見交換した。
多くの人にボランティア
や国際貢献に関心を持って
もらおうと開催。約六百三
十人が参加した。

舛添氏が「国際的視野か
らのボランティア活動」と
題して講演。「日本は持ち
前の勤勉さで治安の良さや
長寿社会を築いた。このノ
ウハウを自信を持って他の
国に提供するべき」などと

話した。

続いてパネルディスカッ
ションが開かれ、森脇忍・
山陽新聞解説委員室長をコ
ーディネーターに、舛添氏
萩原誠司岡山市長、国際医
療ボランティア・AMDA

がある明誠学院高(岡山市)
の関係者ら六人が意見を述
べ合った。

萩原市長は「岡山に根付
くボランティア精神は、明
治時代に孤児院を開いた石
井十次のところから脈々と受
け継がれている」などと話

し、AMDAの津曲兼司医
師は「相手の自立を促すの
が真のボランティア」と強
調。明誠学院高二年の森実
菜江さんは、戦争の影響や
貧困に苦しむベトナムでの
ボランティア体験について
発表した。



ゆうちよシンポジウム
ボランティアを考える ～今、私たちができること～

主催：岡山県内各郵便局、山陽新聞社、国際医療ボランティア・AMDA
協賛：岡山県、岡山市、山陽新聞社、山陽放送、山陽放送、山陽放送



ボランティアについて活発に意見交換したシンポジウム